

郎氏病歿ス。○同月十四日、和田金藏氏監事ニ選任セラル。○十月十一日、東京醫師會館ニ於テ本院創立五十年記念式典ヲ舉行ス。

第三 事業成績

本院ガ明治二十四年創立以來昭和十四年マデノ間ニ於テ舉ゲ來レル事業成績ノ全般ヲ概叙スレバ次ノ如シ、而テ統計中ノ震火災アリシ大正十二年ニ注意ヲ要ス。

第一 教務

- 一、顯微鏡講習科ヲ開クコト（明治四十五年二月マデ） 四十八回
- 一、種痘術講習科ヲ開クコト（同四十三年五月マデ） 二十三回
- 一、速成講習科ヲ開クコト（大正元年中） 二回
- 一、臨時講習會ヲ開クコト 六回

内

- 明治二十八年七月 虎列刺講習
- 同 二十九年五月 回歸熱講習
- 同 三十二年十二月 第一回ベすと講習
- 同 三十三年一月 第二回ベすと講習
- 同 三十六年二月 第三回ベすと講習
- 同 四十三年四月 六百六號講習

- 一、醫學講習會ヲ開クコト（大正五年乃至同八年） 三回
- 一、復興新築後講習會ヲ開クコト（大正十四年乃至昭和十一年） 十七回

内

- 大正十四年乃至昭和九年れんとげん講習會 八回
- 昭和二年乃至同七年診斷検査法講習會 六回
- 昭和八年乃至同十一年診斷治療法講習會 三回

第二 講習、研究者數

- 一、顯微鏡講習科（明治四十四年乃至同四十五年） 三一名
- 一、顯微鏡速成講習科（明治四十五年乃至大正元年） 一五名
- 一、臨時講習科（六百六號） 三三名
- 一、研究科（明治四十四年乃至大正四年） 三〇名
- 一、短期研究科（明治四十四年乃至大正四年） 五三名
- 一、研究科（大正五年乃至昭和十四年）

(イ) 細菌學科

(ロ) 放射線學科

計

- 一、講習會（大正五年乃至昭和十一年） 一一二名
- (イ) 醫學講習會 三名
- (ロ) れんとげん講習會 四七名
- (イ) 醫學講習會 二二〇名

(一) 診斷検査法講習會
(二) 診斷治療法講習會

計

以上各講習及研究ノ總人員

一、明治二十四年(創立)乃至同四十三年

一、明治四十四年乃至大正四年

一、大正五年乃至昭和十四年

總計

一二〇名

四五名

四三二名

一、八七二名

一六二名

五四七名

二、五八一名

第三 顯微鏡ノ檢定施行件數

明治二十四年乃至大正四年

昭和十二年乃至同十四年

總計

一、七四八臺

二八臺

一、七七六臺

第四 醫科用檢溫器ノ檢定件數

明治二十四年乃至同四十四年

明治四十五年乃至大正四年

總計

二七三、〇五七本

約八、〇〇〇本

二八一、〇五七本

第五 診斷材料ノ檢査件數

明治二十四年乃至同四十三年

明治四十四年乃至大正四年

二三、七五一件
四一、八七七件

大正五年乃至同十三年

內譯

一五二、九七〇件

大正 五年

一八、三二四件

同 六年

一八、二一五件

同 七年

一八、七一二件

同 八年

一三、六五七件

同 九年

一五、二八五件

同 十年

一九、三四五件

同 十一年

二〇、七八九件

同 十二年

一四、七五八件

同 十三年

一三、八八五件

計

二一八、五九八件

三六五、〇九二件

內譯

一五、五七四件

大正十四年

二一、六五〇件

同 十五年

二一、四一九件

昭和 二年

二三、八六六件

同 三年

二五、六六八件

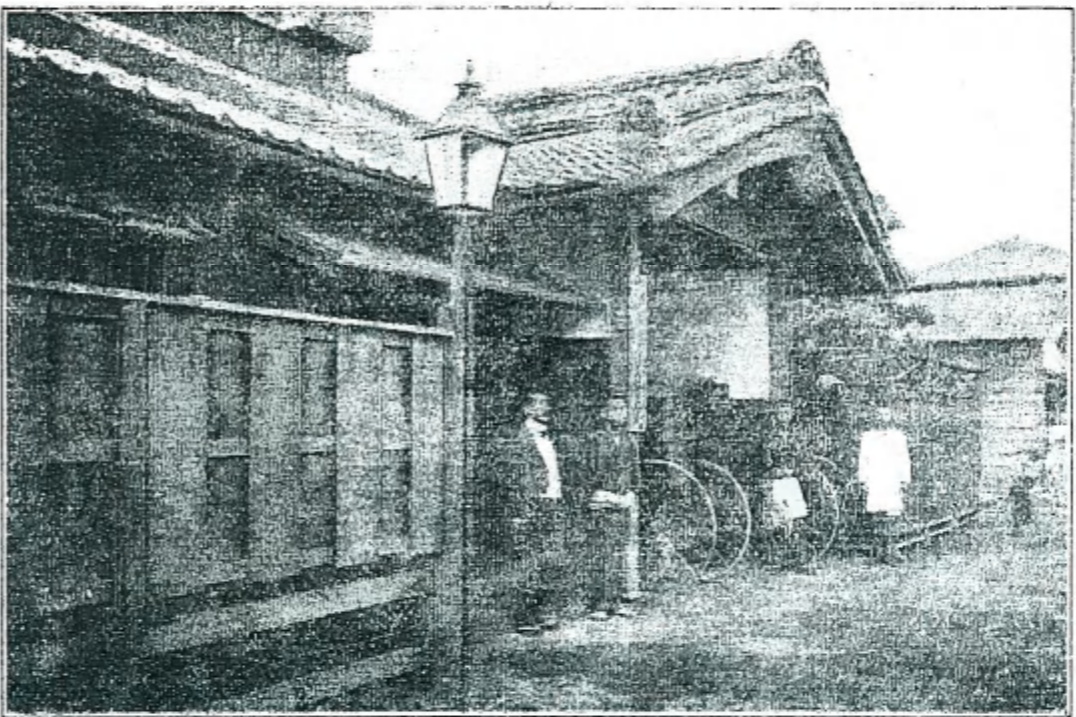
同 四年

二五、六六八件

同 十四年

以上ノ外製品ノ頒布又ハ診査、診療等ニ關スルモノニシテ計數ヲ以テ示シ難キモノ及其要ナキモノハ茲ニ省略ス。

四八〇名 一乙 甲 三一五名 一六五名



明治二十九年四月至 院會ノ全景

第四 院舎及設備

京橋新着町ニ於ケル東京顯微鏡検査所 明治二十四年四月始メテ東京顯微鏡検査所ノ名ヲ以テ起リタル當時ハ京橋區新着町六番地成醫會ノ一室ヲ賃借シタル一小實驗室ナリシ。

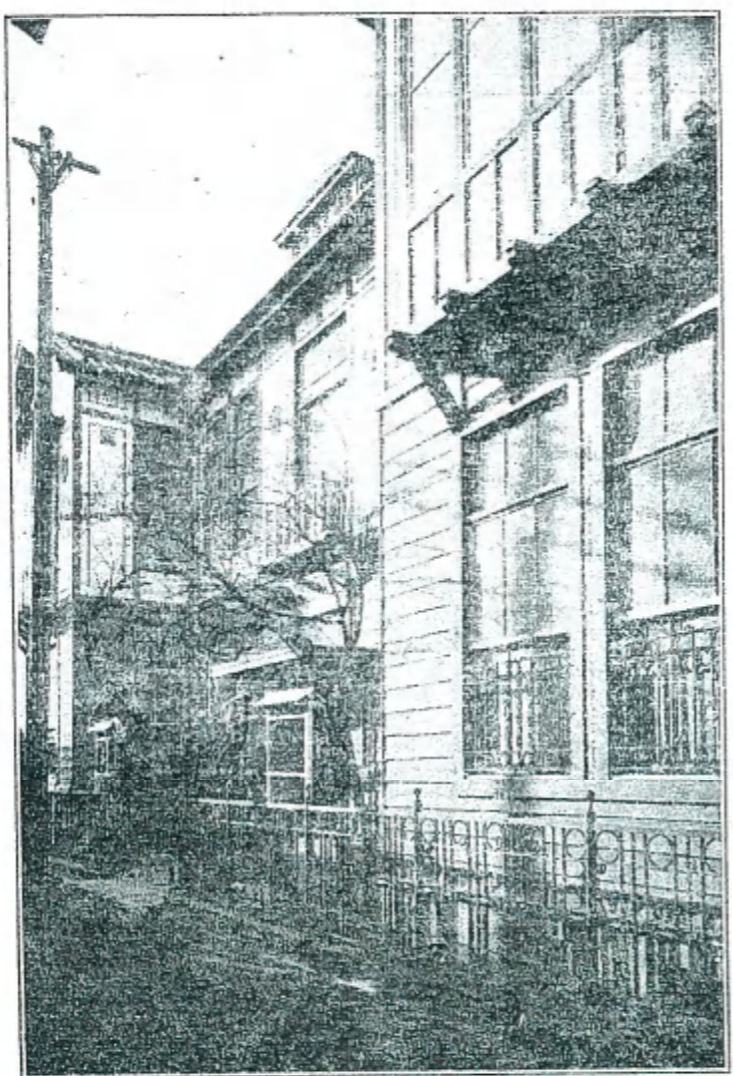
京橋區瀧山町ニ於ケル東京顯微鏡院 同二十五年七月東京顯微鏡院ト改稱シ同年十月同區瀧山町八番地ニ移轉シ獨立セル一棟ヲ構フルニ至レリ。

神田區小川町ニ於ケル舊東京顯微鏡院 爾來逐年業務ノ發展ニ伴ヒ、同處モ亦タ狹隘ヲ告ゲ、神田小川町ニ一建物ヲ購入シテ移轉シタルハ同二十九年十一月ナリシ、該建物ハ元ト稻葉丹後守ノ別邸ニシテ天明七年丁未（大正五年ヲ距ル百三十年）ノ造營ニ係リ、神田區内由緒アル大厦ノ一ナリシガ、維新後轉々所有主ノ代ル所トナリ、或ハ區役所トナリ或ハ私立學校（進徳館其他）トナリ、隨テ外形軒廂等ニ幾多ノ變化アリシモ、其ノ要部ハ依然原形ヲナシ、彷彿トシテ舊時大名屋敷ノ面影ヲ偲バシメタリ、當處附近ハ維新後再度ノ大火災アリ

且近今商業ノ發展ニ依リ新式ノ商店櫛ノ如ク比ベルニ拘ラズ此ノ建物ノミハ全ク祝融氏ノ手ヲ免レ依然舊態ヲ保チ、殊ニ其玄關脇ノ數株ノ老櫻樹ハ當時ノ遺芳ニシテ神田區内ノ珍ナリシナリ。

神田區小川町ニ於ケル新東京顯微鏡院 前述ノ如キ歴史アル建物モ本院事業ノ發展ニ伴フテ狹隘ヲ告ゲタル結果、約百三十年ノ壽命ヲ完ウシテ大正四年四月一切取崩サレ殆ド全部改築スル所トナリ、年ノ八月ヲ以テ土木工ヲ竣ヘ新院舎完ク成レリ。改築サレタル新舎ハ總二階木造ノ洋館ニシテ、上下合計百三十餘坪、階上ニハ大講堂ヲ首トシテ講師控室、院長室、談話室、圖書室、貯藏室アリ、階下ハ學術及診療ノ二部ニ別タレ、甲ニハ第一第二第三細菌試驗室、準備室アリ、乙ニハ診療室、藥室、患者控所アリ、事務室之ニ屬シ、外ニ舊建物ノ一部ニ當直室、寄宿室、動物室アリ。

此新顯微鏡院モ僅々八ヶ年後ノ大正十二年九月一日關東大震火災ノ劫火ニ逢フテ其建物及内容ノ全部ヲ舉ゲ一朝ニシテ燼灰ニ歸シタルコト前述ノ如シ。



大正四年四月至 院會ノ全景

麻布富士見町ニ於ケル臨時東京顯微鏡院 大震火災ニ院舎ノ全部ヲ失ヒタル顯微鏡院ハ罹災後直ニ麻布川住家ノ玄關ハ一室ヲ臨時事務室ニ充テ、庭内ニ急造セルばらつくハ約十五坪ノ亞鉛葦平屋ニシテ、事業ニ要スル器械藥品ハ非常ノ困難ヲ極メ辛フジテ調達スルヲ得、此不完全ナル假屋ニ在テ翌々年三月ニ至ルマデ炎暑ト嚴寒ト闘ツテ事業ヲ繼續シ得タリ。